

2023 年度 子ども健康・スポーツコース 活動報告

名古屋芸術大学 教育学部 講師 細川賢司

名古屋芸術大学教育学部子ども健康・スポーツコースは、2022 年の教育学部開設時に設置され、2023 年には最初の在籍者として2年生3名がコース選択をした。本コースは少人数ながら大学授業だけでなく、地域の人々と協働して子どもの身体・運動発達に資する活動を行ってきた。そこで、本稿では今年度実施した3つのイベントを中心に報告する。

I リズムかけっこ教室

日時：2023 年 10 月 7 日(土)

場所：名古屋芸術大学東キャンパス 11 号館 3 階体育館

本企画は、北名古屋市に6つ存在する地域スポーツクラブの1つである東スポーツクラブと連携して開催した。時期が運動会前だったということもあり、かけっこをメインとしたプログラムを考案した。また、小学生以上が対象だったこともあり、楽しく体を動せるよう、細かいフォーム指導よりも、リズムを意識して快適に走ることを重視した。

1. プログラム

1.1. ウォーミングアッププログラム

メインプログラムの前には、楽しく取り組むための動機づけや、参加者同士のコミュニケーションの促進、そして上肢のスイングの増大を意識した活動を組み込んだ。特に、上肢のスイングの練習では、体操マット上を膝立ちで動き回りながら鬼ごっこをするという活動を取り入れた。膝立ちになることにより下肢の動きが制限されるため、前進するために上肢の動きが大きくなる。このように、遊びの中で走動作を改善するという試みは幼児期～児童期において特に有効である。

1.2. メインプログラム

疾走速度はピッチ（足の回転）×ストライド（歩幅）で規定される。そのため、メインプログラムは以下の3つのフェーズに分けて構成した。いずれのフェーズでも参加者を3レーンに分け、それぞれに学生が1人ずつついてコーチングを行った。

- 1) ピッチトレーニング…手拍子などのリズムに合わせて足の回転速度を上げていく練習。
- 2) ストライドトレーニング…リズムの取り方の違いを感じ、歩幅を伸ばす練習。なお、今回は「アップ」「ダウン」の2種類のリズムの取り方を指導した。「アップ」…手拍子などのリズムに合わせて重心を上げる、「ダウン」…手拍子などのリズムに合わせて重心を下げる。
- 3) フォームチェック…ウォーミングアップおよびメインプログラム1) -2) で取り組んだことを意識しながら10～20m 程度のダッシュを行った。

1.3. クロージングプログラム

最後は上肢や下肢の動き（ピッチ・ストライド）を意識しながらチーム対抗のリレーを行った。ここには学生や地域スポーツクラブのサポートスタッフも混じり子どもたちと共に競走した。鬼ごっこやリレーといった競争の要素が含まれるプログラムは子どもたちの盛り上がりも大きく、当日は保護者も多数参観に来ていたため、子どもたちの反応を見て楽しむ様子が見られた。リレー後に参加者1人1人へ修了証が手渡された。

2. まとめ

本企画は北名古屋市の地域スポーツクラブと連携して行う最初のイベントであった。夏季休暇明け

からに「子どもの運動遊び」や「基礎演習」の授業時間を利用してプログラムの考案や指導のデモンストレーションを行った。当日は地域スポーツクラブの方々のサポートもあり、無事プログラムを完了することができた。参加者アンケートでは「小学校体育では習わないかけこの仕方だった」「意識すればいいポイントが分かった」「運動会で1番をとれた」など高評価を得た。学生にとっては地域と連携してイベントを企画・運営するために必要な準備と、指導を実践するために必要なスキルを理解する上で貴重な経験となった。

上述のように、本企画が本コースにおける地域と連携した最初の取り組みとなったため、教員が中心となって指導した。そのため、学生が中心となって子どもに指導する場面が限定されたことから、次回は学生がプログラムの考案から指導までを担う企画としたい。また、今回はサポートが少人数であったため、短期的な指導による走動作の変化を評価することはできなかった。そのため、次回は iPad などのタブレット端末や、動作分析アプリなどの ICT を活用した指導および評価を実施する予定である。



図1. ウォーミングアッププログラムの様子



図2. メインプログラムの様子



図3. クロージングプログラムの様子

Ⅱ スポーツであ～そぼ！鬼ヶ島編2

日時：2023年10月29日(日)

場所：北名古屋市総合体育館

本企画は、北名古屋市教育委員会主催のイベントであり、子どもたちがコンセプトに沿った9つの運動遊びをスタンプラリー形式で体験していくというものであった。スポーツであ～そぼ！は今年度で2年目であり、前年に引き続き鬼ヶ島を舞台とした世界観でストーリーが構成された。本コース学生もそのストーリーに合わせた運動遊びとして「玉入れ氷鬼」を考案した。

1. ルール

- 1) 1チーム7名程度で協力し、45秒以内にできるだけ多くのお手玉を中央にある的に投げ入れる。
- 2) 決められた範囲内で逃げ回り、鬼にタッチされたら味方に再度タッチされるまでその場で待機する。
- 3) 一度に持てるお手玉の数は1つまでとする

2. まとめ

本企画に関して、教員はルール説明とタイムキーパーのみを担当し、その他の運営（鬼役、子ども・保護者の誘導、結果発表など）はすべて学生たちが行った。臨機応変な対応が求められる中で、学生たちが自主性を発揮し大きな混乱なく運営することができた。その結果、参加者アンケートでは、運動量とゲーム性が高く評価され、トップ3に入る人気

を得た。また、学生を伴った会議への参加等を通じて、市役所職員や実行委員の方々との学外における人間関係の広がりが見られた。これは企画段階から運営に参加したことの影響が大きく、学生の社会的経験を高める上で有効な機会であったと考えられる。

今回はルール説明やタイムキーパーの補助として PowerPoint を活用した。最近では、学校体育授業でもこのように ICT を活用した指導の工夫が見られる。本学においては子ども ICT コースが設置されているため、学生のプログラミングによってオリジナルの教材をすることも可能である。そのため、今回は子ども ICT コースの学生が作成した教材を活用して、子ども健康・スポーツコースの学生が指導を行うといった領域横断的な取り組みにも挑戦したい。



図 4. オープニングセレモニーの様子



図 5. 地域スポーツクラブの方々と関わる様子



図 6. PowerPoint を活用したルール説明の様子



図 7. 玉入れ氷鬼実施中の様子

Ⅲにこにこワークショップミニミニ講座

日時：2023 年 12 月 14 日(日)

場所：名古屋芸術大学東キャンパス 11 号館 1 階子どもコミュニティセンター

本企画は、本学で毎週水・木曜日に行われる「にこにこワークショップ」内の「ミニミニ講座」において、「親子でできる感覚と運動の遊び」をテーマとした体験型プログラムを実施した。対象は 1～2 歳児および保護者であり、約 60 分の運動遊びを行った。

1. プログラム

1.1. メインプログラム：乳幼児向け遊具を使ったサーキット遊び

1～2 歳頃は言語能力が十分発達していないため、複雑なルールを用いた遊びは困難である。また、物理的環境と関わることで、適応的に身体能力を獲得していく時期でもある。そのため、最初のプログラムでは、乳幼児向けの柔らかい遊具を用いて、揺れや回転、逆さ状態などを経験し、姿勢制御や移動運動の発達に必要な感覚を提供するサーキット遊びを行った。



図 8. サーキット遊びの環境構成



図 9. 風船ロードを進む子どもの様子



図 10. ゆらゆらトンネルをくぐり抜ける子どもの様子



図 11. 三角マットを転がる子どもの様子



図 12. トランポリンで飛び跳ねる子どもの様子



図 13. タル型遊具の中に入って転がる子どもの様子

1.2. クロージングプログラム：アート× 運動遊びプログラム

最後のプログラムでは、活動の時期が12月中旬だったこともあり「カラーボールを使ってクリスマスツリーの飾りつけをしよう」というストーリーで、アートと運動遊びが融合した活動を行った。ルールは以下の通りである。

- 1) 部屋の四隅にある籠から指定したカラーボールをタル型遊具に集める。※タル型遊具には予め風呂敷を敷いておく。
- 2) 十分な数のカラーボールが集まったら、風呂敷を引っ張りクリスマスツリーの前で打ち上げる。※参加者にはカラーボールがクリスマスツリーの飾りのように見える。
- 3) 指定する色を変えて繰り返し。

このプログラムは、季節に応じたストーリーやアートと、運動遊びを共存させる試みであった。アートは、美術や造形、音楽だけに存在するものではない。学生と教員がアートを柔軟に捉え、各自の専門性に沿って保育・教育の実践に活かしていくことが重要である。



図 14. カラーボールを打ち上げる瞬間の様子

2. まとめ

対象が1～2歳児ということもあり、当初は30分程度の予定であったが、保護者が積極的に参加したこともあり、実際には1時間前後活発に動き回ることができた。ニコニコワークショップでは、年間を通じて様々な講師による内容が提供されるが、身体・運動発達に関する内容はこれが初めてであり、保護者自身も体験しながら子どもたちの反応を観察できた。またこのことにより好評を得たことがア

ンケートから窺えた。

サポートに入った学生にとっては、言葉を使わなくても実施可能な物理的環境を活かした運動遊びが低年齢の子どもに適合することや、1～2 歳頃の劇的な身体・運動発達を実感する貴重な機会となった。

Ⅳ今年度の振り返りと次年度の展望

今年度は、子ども健康・スポーツコースの活動として、3つのイベントを学生とともに企画・運営してきた。企画・運営から学生に参加させた意図としては、①イベントを成功させるために何が必要か自分たちで考え、準備することの大切さを感じることに、②自分たちが主体となっていることを自覚させ、緊張感をもって学内・学外の関係者と連携すること、③時間をかけて1つの活動に取り組むことで、学生生活の満足感を高めること、の3点に集約される。

企画自体は上述のように関係者から好評を得て概ね成功を収めたと言える。一方で、企画の内容は教員と学生が協働して考えたものの、指導自体は教員が中心であることが多かった。そのため、次年度以降は完全に学生が主体となって企画から運営までを実施する活動を展開したい。また、今年度は北名古屋市地域との連携にとどまったが、愛知県はプロスポーツ球団が多く、教育学部および子ども健康・スポーツコースの専門性を発揮できるさらなる機会を用意できる可能性がある。そのため、次年度は、北名古屋市にとどまらず、東海圏における地域スポーツクラブやプロスポーツ球団と連携し、活動の場を広げていく予定である。